

## ケースカンファレンス (画像) 4 解答

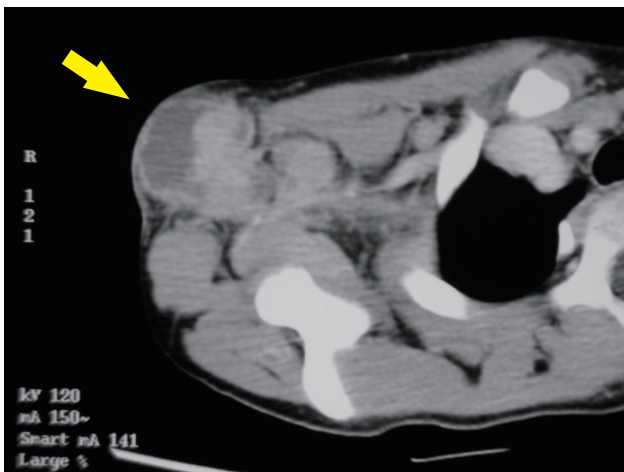
青い鳥こどもクリニック 引田 満

診断は？



診断：Cat scratch disease (猫ひっかき病)

この家では猫を飼っていました。右母指球の受傷と右腋窩腫瘍形成(腋窩リンパ節炎)には1~2週間のタイムラグがあります。傷は猫によるものですが、形状からは引っ掻かれたというよりは咬まれたのではないかと思います。患児は幼稚園児であり、この点をはっきりしていません。CT画像ではlow density areaが確認され、穿刺内容物は写真のごとく膿瘍で、細菌感染が示唆されました。穿刺吸引後の経過は良好でマクロライド系抗菌剤の内服のみで治癒しています。



猫ひっかき病の確定診断：原因は猫が保菌しているBartonella henselae (バルトネラ・ヘンセリ) ですが、この菌の分離、培養、同定は一般的に困難とされているため、血清学的診断を実施したところ、IgM(+) IgG(+)であり、診断に至りました。

日本の飼い猫の7.2%が保菌状態にあり、爪および歯牙からの創傷感染と考えられ、リンパ節腫脹の部位としては頸部33%、腋窩部27%、鼠径部18%となっています。一般的に予後は良好ですが、脳炎、心内膜炎の合併例もみられます。下記のサイトが参考になります。

[http://zoonosis.jp/docs/oh\\_08.pdf](http://zoonosis.jp/docs/oh_08.pdf)

